

2007 年度 地域ワークショップ《中国地区》

(日時:平成 20 年 2 月 20 日(水) 会場:中国経済産業局 第1会議室A )

◆委員長挨拶 (西岡委員長)

私自身、業務開発・広報委員長として、これまで3年間、全国のITコーディネータのビジネスをどうやって確立するか、という業務開発の視点で施策に取り組んできました。一方、「ITコーディネータとは何者か」「ITコーディネータに任せて大丈夫」という声はまだ多く、市場の認知度も低い。3年目の今年、ブランディングという目標をかかげ、広報活動を開始した。これからは業務開発から、広報の強化に力をそそぎます。

広報活動には大きなお金がかかります。私自身のインテルでの経験では、世界全体で統一したメッセージを作り、莫大なお金をかけて徹底しました。しかし、ITコーディネータ協会ではそのようなお金がかけられないので、ITコーディネータ全員の協力で一人ひとりが広報活動をしていく、というやり方を選びました。

「ITコーディネータは、ITと経営に強いコンサルタント」

「資格者は全国で7000人弱、平均年齢は45歳で、四分の一がITコーディネータをビジネスに。顧客の業種は、製造業が2割強、流通・サービスが各々2割弱、官公庁も5%。顧客の規模は、売上2億円未満が30%、2億円から10億円が30%、10億円以上が40%。ITコーディネータの年収は、500万円以上が140人、そのうち1000万円以上が60人」とメッセージを決めました。

さまざまな議論が出ました。異論があることも承知しています。たとえば、企業内ITコーディネータはコンサルタント業務をやっていない、など。しかし、ビジネスをやっている独立系ITコーディネータにとっては必要なメッセージであるし、将来は企業内ITコーディネータにとってもきっと役立つメッセージだと信じて、決定しました。

ぜひ、ITコーディネータのみなさんの名刺に「ITと経営に強いコンサルタント」と刷ってほしい。尋ねられたら、「資格者は全国で7000人弱、……」というコメントを使ってほしい。一人ひとりが、ITコーディネータの認知度向上にむけた活動を実践していただきたい。

また、ITコーディネータという名称ですが、これ自体が貴重な財産。ITCと書かずにITコーディネータと書く、ITCと略して表記する場合でも、発音は「ITコーディネータ」としようと呼びかけています。

今回の地域ワークショップですが、本部が必死で集めて何かを指示する会ではありません。ITコーディネータ同士が、お互いの知恵を盗み、目的を共感し、ノウハウを共有する場として位置づけてほしい。活発な遠慮のない議論を期待します。

(終)